

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

昨年度より、本校の特色ある教育活動を全教職員が共通理解し実行するため、グランドデザインの見直しに着手し、今年度改訂した。本グランドデザインを基に、育みたい生徒像及び育成すべき資質・能力を明確にした教育活動の実現に向けて、教育課程、学習指導、進路指導、特別活動を工夫・改善し、学力向上及びキャリア教育、特別活動等の充実に取り組んだ。また、「可能性を見つけ、チカラを伸ばす」をキャッチフレーズに、広報・募集活動に注力した。

【目標1 学力向上と希望進路の実現】

- ・全ての授業でチャイム着席等の指導を継続し、更なる授業規律の向上を推進した。
- ・教科において、基礎・基本の定着を図るとともに、思考力の育成を図ってきた。また、探究的な活動や発表等を通じて生徒の主体的な学びを引き出す授業を意識的に意欲的に取り組む教員がいた。教員の授業力向上に向け、教員相互の授業観察の実施や、観点別評価と指導の充実をテーマに校内研修を実施し各教科の疑問点や課題の共有を図った。
- ・5教科の全ての授業において予習・復習を課すことを共通目標として取り組むことは課題である。授業評価アンケートのみにとどまらず、生徒自身が予習・復習の価値付けを見出しているかなどを検証し、生徒が主体的に取り組めるような指導の工夫が必要である。
- ・一人1台端末配備2年目は、Teamsを活用した課題配信や生徒からのレポート提出等も定着しており、ICTを有効に活用した授業はかなり進んだ。今後は有事に備え、双方向型オンライン授業等の実施体制の整備と、より効果的な活用の工夫が必要となる。
- ・進路指導部は学年担任等と連携して進路行事の実施を進めた。早い段階から生徒の進路意識を高める取組や、一般受験を志望する生徒への対応については、試行的に進めているが、生徒・保護者のニーズに十分応じているとは言えない。
- ・年2回実用英語技能検定の1・2学年全員受検を実施し、英語技能の強化と資格取得の充実を図った。また、2学年は初めてTGGの校外学習を実施し生徒の意欲を高めた。

【目標2 活力ある学校生活の実現】

- ・全学年の生徒が一堂に会した体育祭や文化祭を実施することができ、特に文化祭においては、多くの生徒が自らの役割に試行錯誤をしながら積極的に取り組むことができた。
- ・部活動加入率は9割の高水準を維持することができた。今後も部活動の意義を踏まえ、活性化に向けた取り組みを推進する。
- ・本校の生活指導については、外部、地域から高い評価を受け、生活指導をきちんと行う学校選びをしている中学生やその保護者の期待も高い。このことから、基本的な生活習慣や挨拶・ルール・マナーの徹底を呼びかけ、生徒の意識向上を図った。しかし、今年度累積指導の件数が急増した。この要因として身だしなみや生活面での問題をチェックすることが目的になっている指導上の課題が挙げられた。生徒に問題を気づかせ考えさせることを前提とした指導が重要であることから、今年度末、累積指導のルールを改め、全教職員が丁寧な生活指導を行う体制構築を進めている。
- ・いじめや体罰を許さない環境づくりについて、校内研修や生徒への意識啓発等を実施した。
- ・スクールカウンセラーによる新入生の全員面接を含め、教育相談員委員会や校内研修を計画的に開催し、教員との相互連携や生徒情報の共有により生徒の心理的な課題を早期に把握し、課題を抱える生徒への対応を適切に行うことができた。

【目標3 地域等との連携と情報発信の充実】

- ・近隣小中学校への学習支援や部活動の交流、五中サミットの参加、ボランティア活動は、地域の評価も高く、生徒の地域協力及び自他を大切にする意識・行動力を育むことができた。また、今年度は、武蔵村山五中区コミュニティスクールや武蔵村山市立第一中学校区教育推進協議会の行事、武蔵村山市主催の未来のまちづくりの意見交換等の積極的参加や、4年ぶりの公開講座実施により、地域に根ざした学校づくりを推進することができた。
- ・ホームページを更新し、本校の教育活動の様子を、中学生をはじめ広く都民に発信した。

学校見学会や学校説明会、部活動体験等を計画的に実施し、昨年度より参加者数は増加した。中学生やその保護者が本校の教育活動に関心を高め、高校生活をイメージすることができるよう、生徒が活躍する場면을効果的に発信することをはじめ、今年度は、本校の特色(強み)をわかりやすくPRした。生徒による母校訪問や教職員による学校訪問をはじめ、主幹教諭による近隣中学校への訪問を積極的に行った。これらの広報・募集活動の結果、3年ぶりに学力検査の倍率割れを脱却することができた。

【目標4 持続可能な学校づくりの実現】

- ・毎週行われる分掌部会や学年会での議論が集約された形で企画調整会議を行い、学校経営計画を具現化するための組織的な学校経営が実行できた。
- ・本校の教育活動の活性化と課題解決に向け、経営企画室が中心となり、分掌や教科等と連携し予算配分と適正な執行を行ったが、一般需用費予算のセンター執行率は目標を下回った。
- ・企画調整会議、職員会議を含め会議の開催時間を1時間以内とし、ICTを活用しペーパーレス化推進により、資料準備など業務時間の大幅な短縮を図った。入選に係る会議や学校いじめ対策委員会など対面で検討・協議を必須とする会議が長時間に及び、教員の負担になることから、議題の精査や事前資料の整理、事前調整等会議運営の工夫改善が必要である。
- ・保護者に対し、留守番電話設定時間を示し、ライフ・ワーク・バランスの取り組みについて理解・協力を求めた。

(2) 重点目標への取り組みと自己評価

- ※自己評価の基準 A：高い水準を達成
 B：目標水準を達成あるいはほぼ達成
 C：目標水準へ一步
 D：抜本的工夫が必要

目標1 学力向上と希望進路の実現	【自己評価 C】
目標2 活力ある学校生活の実現	【自己評価 B】
目標3 地域等との連携と情報発信	【自己評価 A】
目標4 持続可能な学校づくりの実現	【自己評価 B】

【 数値目標 】

< 目標値 >

< 実績 >

① 相互授業観察年3回以上の実施	全員	9割
② 一人1台端末の計画的・効果的活用	全教科実施	全教科実施
③ 夏季・補習等の講座の開講	30講座以上	37講座
④ 模試分析会の実施	2回以上	3回
⑤ 大学合格実績	GMARCH3、日東駒専5名	GMARCH1、日東駒専6名
⑥ 実用英語技能検定3級以上合格者	1年30%、2年50%	1年43%、2年27%
〃 準2級以上合格者	10人以上	20人
⑦ 部活動加入率	95%	95%
行事満足度	80%	83%
⑧ 累積指導・複数回指導	100人以下・20回以下	255件・89回
⑨ 体罰・いじめ・生命に関わる重大事故	0件	2件
⑩ ホームページ更新回数	月8回以上	月33回
⑪ 教育相談・特別支援に係る校内研修	2回以上	2回
⑫ 教育相談委員会	10回以上	13回(ケース会議含む)
⑬ 地域連携;サポーター・サミット	8回以上・2回	8回・2回
⑭ 情報発信;ホームページ掲載	月10回以上	月13回
⑮ 入学者選抜	推薦:3.0倍 一次;1.2倍	推薦;2.7倍 一次;1.1倍
⑯ 会議資料ファイルサーバー格納	100%	100%

2 次年度以降の課題と対応策

全教職員で知恵を結集しブランドデザインに基づく7つの力を育成するとともに、生徒一人一人が自分の可能性を見つけ力を伸ばしたことを実感できるような教育活動を推進する。

(1) 学習指導

- ・生徒の学習意欲に大きな差があり、意欲的に取り組む生徒は学力の向上が著しい。学力が低い生徒の中には、学習方法が分からなかったり、学習習慣が身に付いていなかったりするので、今後も継続的に生徒一人一人に応じた指導を組織的に行う必要がある。また、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多数見受けられる。引き続き5教科全ての授業において「予習→授業→復習」を共通の指導方針とし、生徒自身に予習・復習の意義を十分理解させるとともに、卒業後の目標を早期にもたせ、学習に対する意欲を喚起する指導を推進する。
- ・各教科でより高い水準での知的好奇心を刺激し、学ぶ意欲を高める授業や探究的な学習を工夫する。相互授業観察や他校の模範授業見学を通じて、教員自らの授業改善を図るとともに、教科主任会議を中心とした令和7年度の教育課程の一部改編に伴う学力向上策の協議を重ね、教科指導力を向上する。
- ・ICTリーダーを中心とした委員会でも有事に備えた体制整備と好事例を収集し、共有する。
- ・引き続き、英語科においては、英語力育成のために日常の指導に加え、民間委託事業者（グローバル講座）と連携した英検の受検指導や、TGG校外学習を実施する。

(2) 進路指導

- ・進路指導部が主導し、各学年の連携強化を図りつつ進路行事や面接練習等組織的に行う。
- ・早い段階から生徒の進路意識を高める取組として、進路希望調査等のデータを活用した面談の実施や、第1学年でスキルアップ推進校事業を活用した職場体験を実施する。大学進学については、計画的な進路指導を通して生徒の進路に対する意識向上を図るとともに、生徒一人一人の状況を全教員で共有し個に応じた支援を進め、総合型や一般選抜を受験する生徒の希望進路を実現する。一般大学受験を志望する生徒への指導については、模試結果やスタディサポート結果等を教員が分析し、そのデータを生かした指導を推進する。このため、模試の分析会、生徒集会、長期休業中の講習、面接、ケース会議等、本取組のスキームを立て、計画的・組織的な指導を確実に実施する。
- ・生徒・保護者に向け、タイムリーかつ必要な情報を積極的に発信する。

(3) 生活指導

- ・引き続き、基本的な生活習慣や挨拶・ルール・マナーの徹底を呼びかけ、生徒の規範意識の向上を図るとともに、改訂した累積指導を浸透させ、丁寧で組織的な生活指導を推進する。
- ・全ての教職員は、生徒一人一人を大切に、生徒の変容を見逃さない、組織的に対応する、を心掛けるとともに、生命や人権を尊重し、いじめをしない・させない素養を生徒自らが育んでいけるような指導に努めていく。特にSNSの適切な使用に関する指導を一層徹底する。
- ・特別活動における各活動（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、委員会活動）や部活動において、「生徒が自ら考え、判断し、行動する」ことを指導の重点に置き、生徒の企画立案・運営を支援する。そして、生徒一人一人が自己肯定感や成就感をもち、失敗を恐れず挑戦する、他者と協働していけるよう、全教職員で生徒主体の活動になるよう指導する。

(4) 広報・募集対策

- ・学校説明会等のアンケート調査等の結果から、早期に志望校の情報収集をする中学生が増加していることから、学校見学会や説明会の時期、内容、募集方法等の充実に努める。
- ・夏季休業中に近隣中学校を直接訪問し、本校の特色ある教育活動のPRとその成果を積極的に発信し、本校の魅力を理解した入学生を増加させる。
- ・学校説明会等のアンケート調査の結果より、中学生及び保護者は、ホームページやインターネットで情報収集をしている割合が高い。本実態を踏まえ、中学生及びその保護者が求める情報発信に努めるとともに、ホームページをこまめに更新し、必要な情報を全教職員が発信できる体制を確立する。

(5) 学校経営

- ・教育系と行政系職員の連携のほか、部活動指導員を有効に活用し、業務の適正な分担を進め効率的な組織運営を図るとともに、教職員一人一人が、業務の効率化やライフ・ワーク・バランスの実現を意識して業務を行う。
- ・教員経験の浅い若手教員や異動二校目の教員が多い職場なので、様々な職務を経験させ、教師としての力量を高めるとともに、今後もOJTの中で人材育成を図っていく。